城北小だより

１０月号
令和５年９月２９日
さいたま市立城北小学校
TEL ０４８-７５７-５３９１
児童数６９７名

◇学校教育目標◇
「 考える子　思いやりのある子　がんばりぬく子 」

読書のすすめ

校長　中村　篤

気象庁によると、６月から８月の平均気温は平年と比べ1.76度高くなり、夏の平均気温としては1898年の統計開始以降、これまで最も高かった2010年の1.08度を大きく上回り、この 125 年間で最高となったそうです。１０月を目前にしてようやく秋の気配を感じられるようになりました。朝晩と日中の気温差が大きくなる時期ですので、皆様におかれましては、くれぐれもご自愛ください。

さて、秋といえば、食欲の秋、芸術の秋、読書の秋、スポーツの秋、行楽の秋などと言われます。私にとってはもっぱら食欲の秋ですが、今回は読書にスポットを当てたいと思います。

本校では毎日多くの児童が学校図書館を利用しており、借りた本をうれしそうに抱えている姿をたくさん見ることができます。読書への関心を高める一つとして、朝の時間を使い、ボランティアの方による本の読み聞かせを行ったり、学校図書館の本をたくさん読んだ児童（1･2･3 年生は 70 冊、4･5･6 年生は 40 冊）に、「多読賞」を授与したりする取組を行っています。本年度は９月現在、１５名の読書長者の賞状が学校図書館の入口付近に掲示してありますので、来校された際にはぜひご覧ください。

しかし、読書にあまり興味がなく、読書が習慣となっていない児童も少なくありません。私の小６になる息子も例外ではなく、暇な時間はゲームや動画視聴に没頭しています。読書をしているところを今まで見たことがありません。「ハリーポッターが読みやすいし、面白いから読んでごらん」と勧めても、「１巻は読んだ」と言ってその先を読もうとしません。そこで、子どもを読書好きにするためには、どのようにすればよいのかを調べました。たくさんある方策の中で共通しているのは、①読み聞かせをする、②親が本を読んでいる姿を見せる、③アニメ・ドラマ・映画などで興味を持った原作を読む、そして④親が読ませたい本を押し付けるのではなく、子ども自身が読みたい本を読ませるということです。それが漫画や図鑑のような本でも、まずは本に触れるきっかけを作ることが大切なようです。

サン・テグジュペリ著の「星の王子さま」という小説があります。昔、かわいらしいタイトルに惹かれて読んでみましたが、何が言いたいのかよくわからず、内容がさっぱり入ってきませんでした。あるとき漫画版の存在を知り、早速購入して読んでみました。絵と端的なセリフのおかげで話の流れがイメージしやすく、その後小説を読み返してみると、「ああ、そういうことだったのか」と理解を深めることができました。まずは漫画を読んでみるというのも一つの方法だと実感しています。

また、ドラマの結末が早く知りたくて、ドラマが最終回を迎える前に原作を徹夜で一気に読む、ということをよくします。最近では池井戸潤著「ハヤブサ消防団」です。原作とドラマでは違う点も多くあり、二重に楽しむことができます。

私も読書好きというわけではありませんが、大人になって少し読書の楽しさがわかってきたような気がします。家族にはごろごろしながらテレビを見ている姿ばかりを見られているので、この秋をきっかけに、読書をしている格好いい姿をたくさん見せたいと思います。引き続き学校でも「朝読書」や「読書月間」等の取組を通して本に接する機会の充実を図ってまいります。秋の夜長、ご家庭でもお子様と一緒に読書をする時間をぜひ設けていただきますよう、ご協力をお願いいたします。